

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272400524		
法人名	有限会社 山宝産業		
事業所名	グループホームすこやか		
所在地	青森県五所川原市金木町芦野84番地441		
自己評価作成日	令和2年7月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20-30		
訪問調査日	令和2年10月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの周りは民家や公園、畑等があり地域に密着している。『安らぎと喜びのある毎日、住み慣れた場所、地域でその人らしく最後まで』の理念のもと、散歩をしながら畑の様子をみたり、公園に行ったり、職員と草取りなど、家庭に近い生活支援を行っている。リハビリや体操、口腔リハビリ、脳トレ等を日課とし、健康を維持できるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の職員が多く利用者と顔馴染みの関係ができており、毎月ホーム独自の「利用者権利を守る方針(コンプライアンスルール)」の振り返りを行いながら、利用者に対し地域の中での暮らしを支援するという地域密着型サービスの意義を踏まえたケアを実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	1	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で安心してその人らしい生活ができるように支援している。毎日の散歩を特に大事にしている。	利用者が住み慣れた地域で安心してその人らしく生活ができることを念頭に、地域密着型サービスの意義を踏まえた独自の理念を掲示している。職員は、各々理念を踏まえて利用者のケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は、コロナ対策として外部との交流を中止している。例年であれば、地域の方を行事に招待したり、ホームの菜園作りを協力していただく等の交流をしている。今後、感染状況等を見ながら交流を再開したいと考えている。	近隣住民は、昔の知り合いが多く、野菜の差し入れや気軽に立ち寄り談話する等している。また、ホームの敬老会へ招待して認知症の啓発活動に努めたり、地域行事への参加等、日常的に交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や相談があった際に、認知症の説明や支援の方法等アドバイスしている。また、中学生の実習を受け入れて、認知症について理解を深めてもらっている。今年度は、コロナ対策のため相談は電話に限定し、実習は受け入れていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催している。ホームの状況や行事、防災訓練等を報告してアドバイスを受けている。今年度は、書面に対応している。	家族や町内会長、学識経験者等、多種多様な方々がメンバーとなっている。会議でホームの状況や行事、防災訓練等を報告してアドバイスをいただき、ホームの運営改善やサービス向上を図る取り組みに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	「運営推進会議及び身体拘束適正化検討委員会」に市の担当課職員が毎回参加して、助言や意見、情報をいただいている。今年度は、電話やメールによる指導をしていたり、感染症防止対策のアドバイスや五所川原市地域包括支援センターの看護師による手洗い指導、衛生用品の備蓄状況の確認を行っていただく等している。	市役所職員や地域包括支援センター職員が参加しており、情報提供を受けたり、相談する等している。感染症対策や地域ケア会議へ参加する等、積極的に連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者は職員会議等で身体拘束の内容を説明して、全職員が理解して身体拘束のないケアを実践している。また、やむを得ず身体拘束を行なう場合は、その理由や方法、期間、経過観察等について記録を残す体制としており、家族等に説明を行って同意を得ている。現在、拘束している利用者はいない。	身体拘束廃止マニュアルが作成されており、運営推進会議とともに身体拘束適正化検討委員会を定期的に開催している。職員は、研修や職員会議で身体拘束が利用者にも与える弊害を正しく理解しており、身体拘束のないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は、職員のケアの場面を観察し、入浴時に身体状況の確認をしている。虐待してはならないということを徹底し、勉強会等で虐待の防止や発見した場合の対応方法等について話しあっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は制度の活用をしている。職員に対して、日常生活自立支援事業と成年後見制度に関する勉強会を行い、説明をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、わかりやすく丁寧に説明して利用者や家族の疑問や意見を引き出している。また、契約の改定や退所の際も十分な説明を行い、同意を得ており、退所後の相談にも応じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内外の苦情窓口を明示している。ホーム玄関に意見箱及び郵送用封筒を設置している。家族には電話連絡やお便りに一筆添え、面会時は意見等を話やすいようにしている。	「利用者からの苦情を処理するために講ずる措置の概要」を重要事項説明書に明示し、ホーム玄関に掲示するとともに、家族が意見を出しやすいよう意見箱や郵送用封筒を設置している。また、面会時に意見要望等がないかを毎回確認している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、職員会議で職員の意見や提案を聞く機会を設けており、運営に反映させている。	管理者は、職員の声を大切にしており、職員会議や随時職員の意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映させている。ユニット間の職員異動はあるが、利用者全員と顔馴染みの関係ができており、異動に対する影響は見られない。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、現場の状況のほか、職員の日々の努力や勤務状況等を把握しており、一人ひとりの能力を活かして、やりがいや向上心が持てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員の研修受講を積極的に進めており、年間研修計画を作成して一人ひとりに合った研修の機会を確保している。勤務体制にも配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国、県、西北五グループホーム協会への加入し、同業者との交流や研修参加を勧め、サービスの質の向上が図れるようにしている。今年は中止となっているが、再開後は積極的に参加する予定である。衛生用品窮乏時は、グループホーム協会からの情報を活かした。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用の相談があったときは、利用希望者と面談し、直接話を聞く機会を設けて、思いや不安等へ対応し、信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用の相談があったときは、家族と面談して話を聞く機会を設けている。思いや不安等への対応に努め、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分に話しあい、利用者と家族の思いを汲み取っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬する姿勢を持ち、利用者には得意分野で力を発揮してもらおう等、共同しながら生活している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	1	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	すこやか便りや電話で近況を家族に伝えながら家族の思いを把握している。また、連絡を取りあい、家族とともに本人を支えていく関係を築いている。今年度の面会制限時には、必要な利用者には電話で話をしていたり、家族とのつながりを保つようにした。また、どうしても面会が必要な場合は、玄関(風除室内)で2メートルの距離感を保って面会を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	「仲の良い人の面会を続けてもらう。また、行事に参加を求め、協力してもらう。」というスタンスである。今年度は、新型コロナウイルス対策のため面会と行事参加は中止となっている。新型コロナウイルスが収まり、安全な状況になれば再開したいと考えている。	アセスメントや日々の利用者との会話の中で馴染みの人や場所を把握し、知人訪問時の仲立ちや電話の取り次ぎ等を行い、支援している。利用者の希望により近隣への散歩や買物等の外出支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、利用者間の仲のよし悪し等、利用者の人間関係を理解しながら、利用者同士の良い関係が保つようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて本人と面会したり、家族の相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々利用者とは話し、思いや希望、意向を把握している。また、会話で意向の把握が困難な場合は、家族や関係者から情報を得たり、ケアカンファレンス時の職員の意見等をもとに、利用者の視点に立って意向等を把握している。	職員は利用者との日々の会話の中から思いや意向を把握している。意向等が十分に把握できない場合は、利用者の表情や仕草を観察し、利用者本位に思いを把握するように努めているほか、家族等から電話や面会時に情報収集をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に、利用者と家族等から聞き取るようにしている。また、利用後も折に触れて聞き、把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを把握し、全体像を毎日の状態として記録している。また、日々の生活等を通じて、利用者のできること、理解力を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時は、利用者がその人らしく暮らせるように利用者の意見を聞いている。また、家族等から情報収集して、会議で職員の気づき等を出しあって介護計画を作成している。	利用者や家族からの意向確認と職員の気づきや意見を反映させ、カンファレンスで検討し、利用者本位の具体的な介護計画を作成している。利用者の身体状況や家族の希望等に変化があった場合は、再アセスメントを行い、介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを作成し、毎日の様子や体調等を24時間記録している。また、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人と家族の状況や要望に応じて柔軟に支援、対応をしている。今年度は、面会や帰宅等の人と接することは、制限している。その代わりに、電話等で家族とは連絡を取りあえるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に民生委員等の地域の人達が参加している。また、必要に応じてホーム以外のサービスにつなげるよう、他事業所等と連携している。今年度は、地域の人達との交流や他事業所等との連携を中断しているが、新型コロナウイルス終息後は積極的に行っていきたいと考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者及び家族から希望や納得の得られた医療機関への受診を支援している。また、協力医療機関等と連携しながら、利用者の相談に応じて体調管理に努めており、受診結果は、その都度家族等に報告している。	アセスメントにより利用者の受療状況を把握し、入居前の医療機関の受診を継続できるよう支援している。また、協力医療機関や訪問看護ステーションと連携しながら、利用者の体調管理に努めている。受診介助は職員が行い、結果を電話で報告し、共有が図られている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションより週1回看護師に訪問していただき、利用者の状態や持病等を理解しながら、健康チェックしている。利用者の身体状況に変化があった場合は訪問時に伝えたり、電話で相談できる体制となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、安心した治療と早期退院に向けて、担当医師と情報交換を行うほか、相談に応じていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に対応する指針を作成し、利用者や家族等に説明を行い、同意を得ている。また、入所時や状況変化時に説明を行い、利用者、家族、医療機関との意思統一を図っている。	「重度化した場合における(看取り)指針」によりホームの方針を明確にしており、入所時にホームの対応を説明し、同意を得ている。状況変化時は、適宜家族と協力医療機関や訪問看護ステーションと方向性について再検討を行い、意思統一を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えて、マニュアルを作成して職員会議や勉強会で確認している。消防署による普通救命講習を受け、修了証を頂いているが、全職員が実践力を身に付けるまでには至っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署立会いで避難訓練を行っている。また、利用者と職員と一緒に避難練習を行っているが、今年度は実施できていない。新型コロナウイルスの状況に配慮しながら実施に向けて検討していきたい。	緊急避難誘導マニュアルが作成されており、消防署指導のもと年2回利用者と一緒に夜間想定での避難訓練を行っている。災害に備え、大量の米や非常食、飲料水、防寒具、暖房器具等を常備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の言動を否定したり、拒否をせず「んだ、んだ」と耳を傾けることを職員全員が実践している。一人ひとりの人格を尊重し、羞恥心やプライバシーにも配慮して支援している。また、個人情報の取り扱いにも注意を払って対応している。	開設当初からコンプライアンスを守るよう会議の度職員に周知している。職員は利用者に対し、年長者としての敬意を心がけ、自尊心やプライバシーに配慮してケアを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉で意思表示できない場合は、選択方法を工夫する等して自己決定できるよう促したり、自己決定を促し、表情や反応から読みとるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	言動を急かすようなことはしないで、利用者優先のケアを行なっている。また、利用者のその日の希望や身体的状況に配慮し、柔軟な姿勢で支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者に確認しながら、職員が身だしなみやおしゃれを支援している。本人の希望により美容院を利用できるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を聞いたり、旬の物を提供している。一緒に食事の準備をお願いする等して、食事を楽しめるようにしている。	調理師の資格を持つ職員が献立を作成している。利用者の嗜好や禁忌、食形態に配慮した食事が提供されている。野菜の皮むきや茶碗拭き等、利用者の能力に応じた作業を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの好みや食べる量と飲む量を把握している。水分量は1日1,000cc以上の摂取ができるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝の歯磨きや食後の入れ歯洗い、口腔うがい等、一人ひとりの能力に応じて支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄サイクルや本人の癖等を職員が把握している。ほとんどの利用者がトイレ誘導をして排泄することができている。尿意、便意がない人には、時間でトイレ誘導をしている。	排泄チェック表に記録し、利用者一人ひとりの排泄状況の確認やパターンに応じたトイレ誘導を行い、支援している。利用者の自立度を勘案して、状態に合った排泄用品使用の検討を随時行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のために、お茶等の水分量を多くしたり、食事を工夫している。また、リハビリ等で体を動かすようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	原則として週4回を入浴日としている。曜日や時間帯も含めて、個々の希望等に応じて入浴の支援をしている。	入浴順番やお湯の温度等利用者の意向を取り入れている。一人ひとりの体調や気分に合わせて、羞恥心や負担感に配慮し、安全に入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は体を動かす機会を設け、夜に眠れるようにしている。寝付けない利用者には、付き添ったり飲み物を提供する等の対応をしている。また、その日の体調や一人ひとりの生活リズムを把握し、柔軟に休息を取り入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の記録に薬の調剤表を配布して、職員が確認できるようにしている。また、ホーム長や看護師から全職員に利用者の飲んでいる薬について説明を行い、理解を深めている。また、服薬支援と症状の変化の確認にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の関わりや家族、関係者からの情報を基に、モップがけや洗濯たたみ、調理のお手伝いを一人ひとりの能力に応じてお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩に出掛ける等、日常的に外に出る機会を作っている。例年であれば、利用者の意向を取り入れ、買い物等の外出を計画している。今年度は、人混みを避ける意味から買い物等は控えている。状況が良くなれば再開したいと考えている。	利用者が気分転換ができるように日常的に外出の機会を作っている。また、利用者が希望する外出先を組み入れた外出行事を企画して、移動距離や車椅子専用車を使用する等、利用者の身体的負担を考慮ながら外出支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の能力や希望、家族の希望等に配慮しながらお金の所持や支払う支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方にいる家族に電話をして、声を聞かせたり、会話をさせていただいている。また、手紙のやり取りの支援もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事を作る音や匂い、話し声等、家庭的な雰囲気が感じられるように工夫している。ホーム内を季節ごとに飾り付けを変え、季節感をだしている。また、室温と湿度をこまめに確認して調整している。	ホームの中庭に種々の花木が植えられており、窓から季節の移り変わりを眺めることができる。ホール内は明るく木製のテーブルや椅子が配置されており、適切な温度管理がされており、利用者がゆっくりと寛げる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有のスペースにカーペットを敷いたり、ソファ等を置いて利用者同志が思い思いのスタイルで談話して過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者それぞれが自分の馴染みの物や好みの物の持ち込みがある。本人と話しあってレクで作成した作品等を飾りつけ、居心地よく過ごせる工夫もしている。	利用者が愛用している化粧品や位牌、テレビ、布団等の持ち込みがある。基本的に利用者の意向を尊重して居室作りを行っている。部屋の扉横には手すりを取り付けられ、安全に出入りできるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	新しい入居者に場所がわかるように目印をつけたり、利用者の身体状況に応じてベッド交換等、安全かつ自立した生活が送れるように工夫している。		